



種から育った夏の花 ひまわり (8月9日撮影・坊守植栽)

慧え  
光こう

金光寺寺報  
第170号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

今を生きずにいつを生きる ここを生きずにどこを生きる

法事の席などで、「阿弥陀さまのお救いは、お名前の通り、無量光・無量寿のお救いです。それは端的には、いつでもどこでものお救いということですよ」といったような法話をすることがあります。ご門徒さんが「いつでもどこでもの如来さんで、ほんによかったばい。私も今は元気ばってん、いずれは、いつかどこかで阿弥陀さんの世話にならないけんもんね」と言う方がおられます。

「いやいや。そうではないのです。実は、「いつでも」というのはいつも「今」なのです。「どこでも」というのは「ここ」のことです。つまり「いつでもどこでも」と聞けば、「いつかどこかで」と聞かずに「今ここで」阿弥陀さまに値遇して行くのであると味わっていただきたいのです。

「私の全人生をつつみ込む阿弥陀さま」といっ

た表現をししばしば耳にします。しかしいくら全人生とってみても、それは結局、いつも「今」の自分以外にはないのではないのでしょうか。久遠劫来の過去を経ながら、いま現に迷いの世界に存在し、未来へと歩み続けるのは、他の誰でもなく、いつも「今」の私だからです。ですからお念仏しては、いつもわが身を離れない阿弥陀さまを確認し、またご法義を聞いては阿弥陀さまのお慈悲に身を浸します。それはいつも「その時その場」でやっていくのであり、その人にとっては「今ここ」でお念仏しているのです。そしてどの「今ここ」であってもかまわない。「無量光」だからどこでだっていいし、「無量寿」だからいつだっていい。そしてご法義は味わうのだから「何度でもよい」ということです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

8月 27日(木) 午後  
9月 10日(木) 終日  
13日(日) 終日  
23日(水) 終日  
2016(平成28)年  
2月 20日(日) 終日

7月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2015年 7月 8日 寂満 87歳 様  
本屋敷 橋本 高雄 81歳 様  
2015年 7月 21日 寂満 87歳 様  
揚 甲斐 賢志 87歳 様  
2015年 7月 25日 寂満 87歳 様  
寺 村 藤岡 敏之 様

ホームページ開いてます。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
8月9日現在 アクセス数 76,105人

仏教用語豆辞典

相続

税制改革が大きな話題となっています。相続税はどのようなかと、ご心配な方もあるでしょう。  
遺産相続をめぐる争いも、よく耳にします。家督相続や跡目相続など、相続には、いろいろな

と問題も多いようです。ね  
仏教では、すべての現象は諸行無常で、変化して一瞬一瞬生滅すると説きますが、その流れは継続するといえます。  
今、ここにローソクの火があります。この火それ自体は、一瞬に燃えつきて滅し、その直後に別の火が燃えて、それが絶え間なく連続するから、一つの火として燃えているように見える、というわけです。  
つまり非連続の連続、これが相続で、『俱舍論』(くしゃろん)などいろいろ異なる仏典に出

てくる仏教語なのです。  
その仏教語が現代使われているように、引き続き起こること、受けつぐことの意味となつて、一般にも用いられるようになりました。  
相続といつても、財産や名譽を相続することばかりに、うつつを抜かさないでくださいよ。お念仏相続という、大切な相続もあるのですから。  
(本願寺出版社発行  
辻本敬順著  
「仏教用語豆辞典」一〇〇  
パート一から)

住職ひとりごと

初盆法要おつとめのお宅を知りたいというお声をいただきました。寺報に掲載してくれ、或いは教えてくれというのでした。いずれの要望にもお応えできず、困っていたのですが、よく考えると毎月寺報にお亡くなりになられた方を掲載していること、寺報を綴っておけば分かることに気づきましたので、これからはそのように言うことにしました。綴っておく価値もない寺報かもしれませんが、綴じておいては如何でしょうか。今日(九日)、十一区高齢者クラブの皆さんと金光寺仏教婦人会役員の皆さんが境内清掃の奉仕作業に来てくださいました。いつもお盆前に掃除をしていただきありがとうございます。できるだけご負担をかけないようこまめに掃除はしているのですが、いざ掃除をしていただくときも、軽く掃除機をかけるだけで、軽トラック十二台分の草や落ち葉、剪定した木の枝を捨てに行きました。おかげでもきれいな境内でお盆を迎えられます。丁寧な清掃作業、ありがとうございます。  
(住職 松井卓郎)

# お盆(盂蘭盆)

お盆

亡くなられた先人たちのご恩に対し、あらためて思いを寄せるのがお盆である。

親鸞聖人は仰せになる。  
願土にいたればすみやかに  
無上涅槃を証してぞ

すなはち大悲をおこすなり  
これを回向となづけたり

浄土へと往生した人は、如来の願力によってすみやかにさとりをひらき、大いなる慈悲の心をおこす。

迷いのこの世に還り来たり、私たちを真実の道へ導こうと常にはたかられるのである。

仏の国に往き生まれていった懐かしい人たちは、仏のはたらきとなって、いつも私とともにあり、私をみまもっていてくださる。

このお盆を縁として、すでに仏となられた方々のご恩をよろこび念仏申すばかりである。

鞍岡の夏とは思えないような暑い日が続きますね。連日真夏日になっています。家の中では裸足で過ごします。夕方、本堂にお参りに行く和外陣の畳が暑く感じます。例年にないことで驚いています。

また、日中一番気温が高くなる頃は普段と比べると、当山前の県道を通る人や車が少なく、暑いから活動されないのかなとも思っています。

そんな暑さも鞍岡ではお盆までだったので、今年はどうなるのでしょうか？今年はお盆のお参り数が例年に比べると多いのでできればお盆から涼しいといいけどなと思っています。

お盆といえば、先日、何かの本を読んでいると  
浄土真宗はお盆は忙しくなくていいね。  
うちはお盆前には精霊棚を作り、十三日にはお墓に精霊さんをお迎えに行き、お盆の期間中は精霊棚のお給仕をし、十五

日にはお墓まで精霊さんを送っていかないといいない。  
浄土真宗はそれが無いから忙しくないよね。とありました。

鞍岡では波帰地区は精霊棚を設置されますが、それ以外の地区は精霊棚を設置されません。もちろん、浄土真宗では精霊棚は必要ないし、お墓にお迎えや送りも必要ありません。

それは、阿弥陀さまのお慈悲をいただいて、お浄土へ救われ悟りの智慧を頂かれた方々には、成仏してない精霊さんではないし、還相回向の利益のはたらきをされますから、常に迷いの世界で苦悩している私たちの身を案じてお浄土からこの娑婆世界に還り来て私たちを救うために活動していらっしゃるのです。お迎えや送りはお盆だからといって必要ないのです。

そんなみ教えを示す『拝読浄土真宗のみ教え』から「お盆」の法話をお届けしました。

# 法語の世界

〈原文〉

同じく仰せられ候ふ。当時ことばにては安心のとほりおなじやうに申され候ひし。しかれば、信治定の人に紛れて、往生をしそんずべきことをかなしく思し召し仰せられ候ふよし仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百八十三)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「ただいま、どなたも口では、安心について受けとめているところを同じように申された。そのように言葉の上だけで同じようにしているから、信心が定まった人ともまぎれてしまい、往生することができない。わたしはそのことを悲しく思うのである」と仰せになりました。

〈用語の解説〉

信治定………信心が決定すること。信心がたしかに定まること。

## 二〇一五年秋季彼岸会法要のお知らせ

とき	九月二十三日(水)	十時〜
ところ	金光寺本堂	
勤行	正信念仏偈(草譜)	六首引き
講師	未定	
持参品	門徒式章 聖典(お経本)	
その他	彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の定例会になっています。ご参詣ください。一般門信徒の皆さんのご参詣もお待ちしております。ご家族おそろいでお出てください。	

## 8月の二十四節気と七十二候

(は二十四節気・は七十二候)

**立秋**(りっしゅう・8月8日)  
秋の気配が少しずつ感じられる頃。  
涼風至(すずかぜいたる・初候・8月8日~12日頃)  
夏の暑い風から、秋の涼しい風に替わりはじめる頃。  
寒蝉鳴(ひぐらしなく・次候・8月13日~17日頃)  
夏の終わりを告げるかのように、ヒグラシが鳴いている頃。  
蒙霧升降(ふかきりまとう・末候・8月18日~22日頃)  
森や水辺に白く深い霧がたちこめる頃。

**処暑**(しよしょ・8月23日)  
暑い暑さの峠を越した頃。  
綿柵開(わたのはなしべひらく・初候・8月23日~27日頃)  
綿を包む柵が開き始める頃。  
天地始肅(てんちはじめてさむし・次候・8月28日~9月2日頃)  
ようやく暑さが静まる頃。  
禾乃登(こくものすなわちみのる・末候・9月3日~7日頃)  
日に日に稲穂の先が重くなってくる頃。